

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 篠原敬一 編集者 高山英樹



福岡市長賞
「ウェイッ!!」
光應寺保育園 吉岡 千夏

福岡市保育連盟会長賞
「おいしーっ!!」
中比恵ソレイユガーデン保育園 藤 千明

福岡市議会議長賞
「わあ!」
月隈保育園 藤井 由美子

こどもの えがお展 より

(10月25日~10月29日
ソラリアプラザ1F ゼファ)



西日本新聞社賞
「びよーん」
みとま保育園 松崎 詩帆

市民賞
「ピタッ!!」
東青葉保育園 小倉 由依

※市民賞は来場者投票で選ばれました

平成29年度 2号



vol. 116

笑顔があふれる保育園	2	新園紹介	7
保育士会のページ	3	リレー回想	8
青年部被災地レポート	4~5	編集後記	8
福岡市科学館 開館	6		



笑顔があふれる保育園

～ゆめの森こども園・西新・野芥・高美台・脇山・入部保育園～

こどものえがお展入選作品から選び、原稿を依頼しました。

入選



「まっぺ〜♪」

ゆめの森こども園 堂領 志伊奈

お天気が良い日は、園の周辺にある公園や施設に子ども達と散歩に出かけることがあります。この日は、木の葉モールに行きました。イベントが催されていて、いろいろなお家(〇〇屋さん)がたくさん建っている広場で多くの子どもが遊んでおり「おいしい料理を作るぞ」「見てみて、可愛いお皿があるよ」と、楽しそうな声がたくさん聞こえていました。ある時間にベルが鳴り始めました。「なんだろっ?」「何の音かな?」と子ども達は不思議そうな表情で待っていると、屋根のあるお家からシャボン玉が飛んできました。目を輝かせてシャボン玉を追いかけたり、手に乗せようとしていたりする子ども達。この1枚は「待つて〜」と言いながらシャボン玉を追いかける姿を写したものです。

入選



「ボタンキユ〜」

西新保育園 時枝 成美

五月、初めての保育園の環境にも慣れ、笑顔で元気いっぱい遊ぶようになった子ども達。この日は天気が良かったので戸外に出て外気浴をしました。ぽかぽか陽気の中で遊んだ後は、待ちに待った大好きなお給食。大声を出したり机を叩いて催促し、ペロリと完食しました。お給食を片付け、急に静かになったと思いつき振り返ると...。三人揃ってこの状態になっていました。つい先程までパワフル全開だった子ども達のエネルギーが一瞬にして切れた様子が、何とも愛おしく思わず写真に収めました。何事も全力で、素直で、一瞬一瞬違う表情を見せてくれる子ども達に日々癒され元気をもらっています。これからも様々な思いやメッセージを見逃さず、素敵に一瞬をカメラに収めていきたいと思っています。

入選



「ぼくにまかせて!!」

野芥保育園 津野崎 美子

入園進級して落ち着いてきた5月頃から、パジャマを着ての昼寝が始まりました。最初は一人で着替えることもできず「先生して〜」と助けを求めてきていた子どもたち。次第に一人で着替えることができるようになり、衣服も上手に畳めるようになり少しずつ自分でできることが増えてきました。パジャマに着替えるのも上手になってきたある日、一人の男の子が女の子の肩ボタンがついていないのに気づき、「一生懸命とめてあげようよ」といいます。色んな子が「自分がする!」と立候補する中、勝ちとった男の子の真剣な表情と、どんなに時間がかかってもつけてもらうまでじっと待つてあげる優しい女の子の二人の姿が微笑ましく、こちらまで何だかポツと心が温かくなると思ふ成長の姿に嬉しさを感じました。ちなみにこの後、悪戦苦闘の末、肩ボタンをとめてあげることができました(笑)

入選



花びら まてまて

高美台保育園 間宮 結子

保育園の園庭の桜の花が今年も満開に咲いていた四月。子どもたちはきれいな花を眺めたり、落ちてくる花びらを集めて大喜びしたりしていました。その中でも大はしゃぎしていたのが、花びらを追いかけて捕まえようとしていた男の子。風に吹かれてヒラヒラと舞っている花びらを、地面に落ちる前にキャッチしようとして夢中になって遊んでいました。じっと上を眺めて花びらが落ちてくるのを待ち、舞った瞬間「キヤー!!」と、はしゃぎながら両手を伸ばして追いかける姿がとても可愛かったです。空中でキャッチするのは難しく、「次こそは」と目を輝かせて何度も何度も追いかけて、やっとキャッチできたときは、さらに嬉しそうに笑顔を見せてくれました。

入選



「けっこうなめてまえてますか?」

脇山保育園 井上 二三乃

お茶の先生は、脇山の子どもたちが大好き。先生のささやくような声そして 優しい笑顔。子どもたちは、声を聞きのがすまいと 顔をのぞきこみます。「さっそう シャカシャカね。上手ですよ!」「せんせい ぼくもみてください!」「どっこも 筋がいいですよ!」「けっこうな おてまえてますか?」「勿論ですよ!」脇山の美しい自然と共に心も身体も、すくすくと育っています。

入選



「パンジャー!パンジャー!」

入部保育園 中村 裕美子

保育園から道路を挟んだ真向かいに、「みんなの広場」と呼んでいる場所があります。季節の野菜を育てる畑の隣に、たくさんのお虫たちが集まる草むらがあり、お天気のいい日には各クラスで遊び場の争奪戦です。三歳児クラスでは、「自分だけのカメラを作って園外に出かけた日のこと。友達が決めたポーズをする姿を一通り取り終えた男の子が向かったのは、空に向かって真っすぐ生長していたネギの前。片目をつぶってシャッターを切る姿は、まさに小さなプロカメラマンのようでした。その真剣な表情と生物にも自然と興味を示せる豊かな心の成長が垣間見えてとっても微笑ましい時間でした。

保育士会のページ ～しあわせな瞬間!! 私たちがいるんです～

保育園職員えがおコーナー 福岡市保育士会

「保育の仕事の理解、やりがいを伝えると共に、保育園で働く職員の姿を市民に伝え、アピールしたい!」を目的に、保育園で働く職員の素敵な笑顔が、いっぱい集まりました。沢山のご応募ありがとうございました。



特選 「お給食どうぞ」
西新保育園 田中 美佳



**保育士会
会長賞** 「ばあ!」
愛咲美保育園 佐藤 加奈子



特選 「集合写真の合間で」
筑紫ヶ丘保育園 河野 美幸



準特選 「うんどう会 お遊戯」
光の園保育園 城戸 利男



準特選 「眠くなっちゃった」
北崎保育園 原田 ちずる



準特選 「あーん」
あさひ保育園 柿山 真衣子



準特選 「バァ!!」
おひさま保育園 佐藤 友紀子



準特選 「口を拭くのも楽しいね」
博多保育園 小嶋 理香



準特選 「元気いっぱい」
姪浜保育所 花園 麻美

準特選 「よくがんばったね」
光の園保育園 城戸 利男

- 入選**
- | | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|--------|-------|
| 西新保育園 | 田中 美佳 | 脇山保育園 | 井上 二三乃 | みとま保育園 | 松崎 詩帆 |
| つぼみ保育園 | 城戸 奈緒 | 隅田保育園 | 谷口 美香 | 光和保育園 | 古賀 良和 |
| つぼみ保育園 | 宮川 京子 | 慈光保育園 | 森山 千里 | | |
| 高取保育園 | 山田 基寛 | 愛咲美保育園 | 佐藤 加奈子 | | |

福岡市私立保育士会は、保育士や栄養士、調理員など福岡市内の私立認可保育園で働く職員で構成される組織です。

自主的な活動を保障するため「会費制」とし、専門性及び資質向上のための研修事業や会員同士の連帯感を深めるための交流事業、また保育内容の向上のための研究事業や研究成果を発信するための広報活動を行っています。

さらに、福岡市保育協会と連携し「一人ひとりの子どもの最善の利益を尊重し」、「保護者とパートナーシップによる子育て文化づくり」そして、「保育のプロとしての専門性の確立」をめざしていきます。

1. 子どもの最善の利益のための活動として、「コミュニケーション力増加」と「子どもの貧困」問題への実態調査を主任会中心に行います。

2. 職員の資質向上の活動の内容としては、キャリア別研修会や各区の自主グループ研究会の開催を中心にするることによって、専門職としての資質向上を目指すことを基本にします。

また、保育者不足の問題のためにも処遇改善を見届けていきます。

3. 保護者・地域支援のための地域子育て支援研修に取り組み、保育園の役割の幅を強化していきます。さらには、保育所の会員相互の交流を深めることによって組織の強化も目指していきたいと考えています。

福岡市私立保育士会
<http://f-hokkushikai.com/index.html>

青年部被災地レポート

Part 6



青年部 副部長
大濠保育園 園長 濱崎 千恵

七月二十七日から二十九日の三日間、現役員十名、OB・OG会員四名、計十四名で岩手の地を訪ねました。東日本大震災から六年が経過し、青年部による被災地訪問も今回で七回目となります。

今回の訪問では毎年訪れている大槌町の保育園と、初めてとなる陸前高田市の保育園を訪問させていただきました。陸前高田市の保育園では、初めてとは思えないほど親しみ深く温かく迎えてくださり、五つの園の園長先生からお話を伺うことができました。また大槌町では、仮設住宅が減り、かさ上げ工事や防潮堤の工事が進み、街並みがいよいよ変わって見えました。一見復興が進んでいるようにも見えましたが、これまでとは異なるコミュニティの中で、定員を大幅に満たない保育園が出る等新たな課題に直面していました。

また、訪問直前の九州北部豪雨の被災地向けた義援金を、岩手県の間とることで集められたり、福岡と知ると気遣ってくださったりしたことが印象的でした。私達にできることは、被災地を思い支えを継続していくこと、被災地からの学びを日々の園運営や生活に活かすことであると思います。東日本大震災後、国も「地区防災計画ガイドライン」を示し、行政に頼るだけでなく、私達住民や事業者の災害への備えや心構えが必要であると警笛を鳴らしています。より安全に安心して日々の保育を行うためにも、行政や地域住民の方々の協力体制を整えることや避難訓練を充実させること等が求められます。被災された

先生方の生の声を聞くことや遅々とした復興の様子を目の当たりにして「私達にできること」を改めて考え直す研修となりました。

大濠保育園 濱崎 千恵



高くそびえる防潮堤

日台きずな保育園 岩手県山田町

この四月から園長に就任された佐々木静子園長先生が、温かい笑顔で出迎えてくださいました。現在の園児数は八名（五歳児四名、四歳児二名、三歳児一名、二歳児一名）で、職員五名（園長 保育士三名、栄養士一名）とパークの園児バスの運転手さ

んで園を運営しているそうです。日台きずな保育園は安全な高台にあります。園舎のどの部屋からも山から海に向かって広がる美しい景色を見ることが出来ます。また、園庭が羨ましいことにとっても広く、園舎の外観も内装もステキです。しかしながら、園児が増えないため、認定こども園にする予定だった園舎の半分は使われていませんでした。道が近くまで通ってきて、周辺に家も建ち出したことが、子どもがいる家庭は少ないことでした。今の5歳児の卒園後に園児は増えるのか、と心配されました。被災前に居住していた土地に地域の人たちが戻ってくるわけではないことも、残念そうにお話されました。災害復興住宅の入居は抽選のため、当たっても断る人もいるし、入居しても知人がおらず孤独になる人もいるそうです。今回、お話しして下さった園長先生をはじめ、笑顔で迎えて下さった日台きずな保育園の職員の皆様にご挨拶申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

内浜保育園 川寄若

堤乳幼児保育園 岩手県大槌町

二〇一一年三月十一日の震災発生後、もともと新園舎を建設する予定であった保育園裏の土地を仮設住宅地に提供してきたが、五年七ヶ月の時を経て、ようやく仮設に住む人たちが他へ移り住み、二十五世帯全ての仮設住宅が撤去された。又、津波の被害を受けた地域もかさ上げが終了し、新しい住居が建設されている。外観を見る限り、町のハード面は、ほぼ復興を遂げているように思えました。

震災がなければ、今年の年長児は卒園までの六年間を（〇歳児から入所した場合）新園舎で過ごす予定であった。失われた六年間かもしれないが、彼らが成長して、被災した人のためだったことを誇りに思っているように思った。少しでも新園舎での思い

出をと、二月の竣工を目指し、卒園式は新園舎で行う予定である。表向きには、環境が整いつつある大槌町。しかし残された町には、雇用の問題、人口減少の問題等、震災の爪あととは根深く残っている。

城浜保育園 増本 律秀

大槌保育園 岩手県大槌町

三年前に訪問した際には更地が目立ち、園にすんなり行けたのですが、三年の間に園周辺が大きく変わり、今回はそうもいきませんでした。到着すると、八木澤園長先生が変わらぬ笑顔で迎えてくださり、震災より六年経過した現在の保育園のことなどをお聞きすることができました。

現在はまだJRも復旧しておらず、公共機関といえば一時間に一本走るバスのみ。「大槌は車がないと生活ができないんです」と気さくに園長先生がお話してくださいました。また、講堂にある照明を水銀灯からLEDに改善したと説明を受けました。理由としては、「災害時に破損した場合に水銀灯だと大変危険なので危険を少しでも軽減するため」、「保育園が避難場所などになった際、十分な明るさになるまでに時間を要するので一刻も早く十分な光を提供し、少しでも早く不安な気持ちから解放してあげたい」とのことからでした。お話を聞いていて、「なぜ震災後の復旧工事に際して行わなかったのか」という疑問が浮かび上がり園長先生に質問すると、「原型復旧。これが国の補助金を活用しての復旧には大前提。その当時に改修することはできませんが、改修すると園の負担となるんです」という回答が返ってきました。こちらからは震災を経験したことによる防災に対する意識の変化等についてお尋ねしました。以前までの保育園のそばにある避難場所

だと安全ではないため、現在は保育園から四キロほど山側に向かった先にある老人福祉施設に変更したそうです。必然的に徒歩では避難できなくなってしまったので子ども達を各職員の車で避難させたとのことでした。三歳児になって最初に指導するのは防災頭巾の被り方と避難する際に乗車する車の駐車番号を覚えること。避難訓練の中にも乗車訓練というのを設けているそうです。訓練を重ねることで現在は警報からわずか三分で乗車完了できるということでした。避難訓練も抜き打ちの頻度が高く、その際に出た反省を踏まえて再度訓練をし、さらには、職員の人数が少ない日、少ない時間帯に訓練を設けて保護者も一緒にしてもらおうようにしているそうです。

「地震が起こった際、保育をしている子どもたちは園で守るので、保護者の皆さんは自身の命を守ってください」、「警報解除1時間後から保育を開始しますが、それまでは電話も一切でませんので、お迎えが避難場所か園なのかは自分で判断してください。また、避難場所方向に勤務先がある方、避難場所の老人施設で勤務先がある方はお手伝いに来てください」と、四月の入園式で説明をしているとのことでした。今回の訪問で、私たちの避難訓練、避難方法、避難場所をしっかりと見直さないとけないと改めて感じました。

太陽保育園 大西 栄理

岩手県陸前高田市

七度目の岩手訪問にして初めて陸前高田市まで足を延ばし、震災当時の話や現状（復興状況等）を見聞きすることができました。

陸前高田市では、地震が引き起こした大津波によって市役所庁舎を含む中心部が壊滅し、市の全世帯のうち半数以上が被害を受け、そのほとんどが全壊であったという。震災から六年が過ぎた今も復興に向

て中心地の盛土工事が行われています。そのような中、我々は、広田保育園を訪問し、陸前高田市保育協会五ヶ園（広田保育園を含む）の園長先生方から貴重なお話を聞かせていただきました。

（震災当時の話）

津波が迫ってくるのが見え、子ども達を裏山に避難させた。その際、近くの中学校から避難してきた学生が子ども達を抱き抱えて一緒に避難してくれた。高台にあった園舎は水浸しになったが、震災後四年間、その園舎を使い続けなければならなかった。

海からかなり離れていたため、当初何が起きているのか分からなかった。お迎えに来てもらえなかった子ども達と職員が園に一時泊したが、一晩中鳴り響く線路の警報器と寒さが強烈に印象に残っている。職員が自分の家や家族が心配だから帰りたいと訴えてきたが、その日は帰らなかった。お迎えに来た子どもを帰して、その後、津波の被害にあった子どももいた。

どの園も何かしらの被害にあい、辛い思いや大変な思いをしてこままで何とかやってきたということだったが、そのような中でも、防災訓練マニュアルの作成、地域住民や保護者と合同の総合避難訓練、防災マップ作り、地域の方々との交流等々、新たに作り組んできたこともたくさんあるという。また、園舎の建て替えを行った二つの園は、マレーシアからの援助、クロネコヤマトのヤマト福祉財団の援助により再建を果たしたということでした。園長先生方の、「今、振り返ると本当によくやってきたなと思う。思い出すのも嫌だ」、「子どもを帰さなければよかったという後悔の念が今も残っている」という言葉が胸を締め

最後に「奇跡の一本松」を見に行つたが、震災遺産に指定されたユースホステル以外は何もなく、一本だけぽつんと松の木が立っていた。津波の恐ろしさを実感できる場所であると同時に、凜と佇む姿に未来



旧園舎前にて（広田保育園）



研修風景（陸前高田市）



奇跡の一本松



旧わかき保育園跡地

への希望も感じた。きっとこれから先もこの場所での町の復興を見守り続けてくれると信じている。

和光保育園 高木 禎晋

福岡市科学館 開館

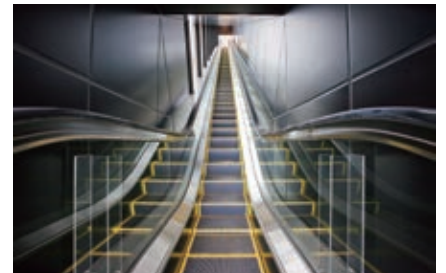
この度、平成二十九年十月一日に開館しました、福岡市科学館をご紹介します。この福岡市科学館は、中央区舞鶴にありました、福岡市立少年科学文化会館（平成二十八年三月に閉館）の後継施設として新たに開館したものです。



外観

場所は六本松四丁目「六本松421」の三階～六階のフロアにあります。交通アクセスは、福岡市地下鉄七隈線六本松駅3番出口より徒歩すぐ。西鉄バス「六本松」バス停より徒歩すぐとなっております。科学館専用の駐車場は無い様ですが、貸切バス等の場合は一時乗降は出来るようになります。その場合は施設への申請が必要となります。

開館時間は九時三十分から。入場料につきましては、基本展示室、企画展示室、ドームシアター（プラネタリウム）共に料金が掛かります。但し未就学児については、一部番組を除いて無料となります。



エスカレーター

ております。科学館へは一階から伸びるエスカレーターで三階までの移動か、エレベーターでの移動となります。エスカレーターは一人乗りです。

ので、園児の移動には注意が必要です。フロアについては三階はチケットカウンターや企画展示室、連携スクエア、四階はサイエンスナビ、実験室、交流室、おやこひろば等があります。この交流室を利用してお弁当を食べたりも出来るのですが、小学校の社会科見学と重ならないければ利用可能との事。事前に確認してみてください。五階は基本展示室となっております。最新の様々な科学を体験出来ます。六階はサイエンスホールやドームシアター（プラネタリウム）となっております。プラネタリウムにつきましては自然に限りなく近い星空を再現する最新鋭光学式投影機と高解像度（8K相当）デジタル式投影機を駆使し、臨場感あふれる映像



交流室



プラネタリウム



基本展示室

を楽しむ事が出来るそうです。以前の福岡市立少年科学文化会館と比べると、最新鋭の機器やコンピュータ等を使用した洗練された体験型の施設といった印象です。各フロアの詳細につきましては、次号でお知らせ致します。

料金表

個別券

基本展示室・ドームシアター（プラネタリウム）		
	個人	団体
大人	500円	450円
高校生	300円	270円
小・中学生	200円	180円

※未就学児については無料です。
 ※団体利用は、30名以上となります。
 ※身体障害者手帳等の提示者本人と介護者1名までは無料です。
 ※企画展示室・ドームシアターのスペシャル番組等は料金が異なります。

年間パスポート

大人	高校生	小・中学生
3,000円	1,800円	1,000円

年間パスポートでは、基本展示室とドームシアターをご利用いただけます。
 ※ドームシアターは1日1回のみご覧いただけます。
 ※企画展示室・ドームシアターのスペシャル番組は対象外です。

福岡市科学館について



福岡市科学館は、子どもたちを始め市民が科学を体験し、楽しむことを通じて、自由かつ自発的に学習することを支援するとともに、福岡の人及び資源との連携、福岡の将来を担う人材を育成、市民の文化教養の向上への寄与を目的とする施設です。

5階の基本展示室をはじめ、6階のドームシアター（プラネタリウム）と多目的に利用できるサイエンスホールのほか、実験室や工作室での活動プログラムやさまざまな企画を通じて、科学への興味・探究心の向上と創造力を育み、また、人と人が交流し、ともに成長できるしくみを作り、人が育つ工夫に取り組んでいます。（HPより）

NEW!! 新園紹介

平和ちとせ保育園

園長 藤由美子

定員 120名

「Home」くちとせの理念を一言であらわす言葉です。子どもにとってはもちろん保護者にとっても、いつでも帰って来たくなるあたたかな居場所でありたい。行き届いた安全な環境と、家庭的な雰囲気の中で、ひとりひとりの子どもを理解した保育をおこないます。思いやりをもち、自分で考え行動できる子どもを育てることも、職員もまた、子どもにとってなにかよいかを自分自身で真剣に考え実践しています。子どもにとっても、保護者にとっても、保育士にとっても居心地よく、のびのびと成長できる場所でありたいと考えています。

みんなが心安らげる場所、愛情いっぱい、笑顔いっぱいの「Home」となるよう頑張っています。

「Home」となるよう頑張っています。



ここ葉保育園

園長 尊田正志

定員 80名

平成二十九年四月に早良区百道浜に開園しました「社会福祉法人美裕福祉会ここ葉保育園」です。近隣には小学校、病院、福岡タワー、中央公園等たくさん自然あふれる素晴らしい環境の下、日々保育に取り組んでいます。私どもの法人は福岡県久留米市に2園、神奈川県横浜市、川崎市にそれぞれ1園ずつ保育園を運営しており、ここ葉保育園で5園目の認可保育園となり、法人設立以来長きにわたり家庭の延長線の保育を基本にして縦割り保育、食育等に力を入れています。ここ葉保育園もこの方針を取り入れ子どもたちの個性を尊重し保育を行っています。子どもたちの生きる力を育む施設として、また保護者を応援し続ける施設として、この早良区百道浜という土地で、福岡市の待機児童解消に微力ながら貢献できるよう、また地域の社会福祉に役立てるよう、これから一歩ずつ保育にまい進していきますので、今後ともよろしくお願ひします。



姪北ちとせ保育園

園長 江頭伸彦

定員 90名

江戸時代には、唐津街道沿いの宿場町・港町として栄えた姪浜。大正時代から昭和三十年代までは、炭鉱の町としても栄えたようです。現在でも、趣のある町屋が残る姪の浜三丁目の地に、社会福祉法人ちとせ交友会「姪北ちとせ保育園」はあります。ちとせ交友会として、初めて、九州博多の地に保育園を開園いたしました。

私共法人には、HOME（ホーム）という基本理念があります。保育園の場所や環境がどのように違っても、一つの理念に向かって運営していくためです。「ここに集い、ここに育み、そしてここからははたく、ちとせ交友会は、かかわるすべての人にとって、心安らぐ場所、HOME（ホーム）でありたい」

保育園は、子どもたちが日中過ごすホームです。すべての子ども、そして、保護者の方が心安らぐ、憩いのホームとなりますよう、愛情いっぱい、笑顔いっぱいの保育園運営を目指しています。



いとぼっほ保育園

園長 谷口由美子

定員 50名

JR九大学研都市駅で下車、イオン伊都を抜けると、そこに地域複合福祉センター「いと楽し」があります。その中にできた小さな保育園、それが「いとぼっほ保育園」です。高齢者の方々と子どもたちが触れあえる複合施設として平成二十九年四月一日にオープンいたしました。

部屋区切りがないアツパッパーの保育スペース、幸いにも施設の周りには大きな公園ができ、狭いながらも楽しい我が家とばかり、広い公園を活用させていただきながら、のびのびと活動しております。

また、地域の方々、施設の地域交流ホール等を利用して、いろいろな機会を通じ地域の方々との連携につなげていければと思っています。

0歳から100歳まで、命のつながりを感じながら、施設の職員（介護士・看護師）の方々や連携・協力しあい、安心・安全・あったかな保育を心掛けていきたいと思います。そして、子どもたちにとって、保護者の方々にとって、地域の皆様方にとって、また、意欲を持って就職して頂いた職員ひとり一人にとって、「いと楽し」保育園、職場となるよう、丁寧に人間関係を築いていきたいと思います。

「いとぼっほ」今年、初めの一歩からです。皆様方の指導をよろしくお願ひいたします。



リレー回想

学校(教育委員会)から 保育園(こども未来局)へ

光和保育園園長 古賀良和



高校・大学の先輩、多々良保育園の大神園長先生からリレーを引き継ぎました、東区の光和保育園園長の古賀良和です。

三十八年間の教職人生を終え、昨年度副園長として園に入り、今年一月から父(典麿)に代わり理事長・園長に就任しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい世界に入ってきて、学校との様々な違いを感じています。

今回一番に感じたのは、保育士と教員の意識と意欲の違いです。多くの教員は、子どもの教育に情熱をもち、教職を一生続ける仕事だと思っ

ています。もちろん、保育園でも子どもが好んで、良い保育士になりたいと頑張り、一生保育士を続けたいと思っている職員も多いと思います。しかし、教員と比べるとその比率は低く、離職率が高くないでしょうか。

この違いは何でしょう。いくつか考えられると思いますが、やはり、仕事に対する誇り、それと給与と勤務形態の違いなどに原因があるのではないのでしょうか。

保育士は、もっと自分の仕事の重要性を理解して欲しいと思います。

今まで、学校という預ける側の立場にいた者として、いかに保育園がありがたいか、保育園なしには、教員は続けられないのだということ声を大にして言いたい。

さらに、各保育園、それぞれ特色を生かして、幼稚園と違って0歳からの就学前教育に力を入れている。このような状況は、自分たちが思っている以上に、多く働く人達に感謝されているし、社会の中で重要視されている。このことを十分意識して欲しいと思います。

保育士は確かに給与はそんなに高くないかもしれないし、早番や遅番があつて、子育てをしながら勤めにくい面があります。

しかし、かつて人権法(学校教育の水準の維持向上のための義務教育諸学校の教職員の人材確保に関する特別措置法)が制定され教員の給与が上がってきたように、やり方は賛成しかねますが、処遇改善Ⅰ・Ⅱや家賃補助・保育士人材確保事業等の優遇措置もとられてきています。

待遇もきつと変わってきています。そう思って、自信と誇りをもって仕事を続けて欲しいと思います。そのためにも、努力も必要です。

自己研鑽に努め、保育士としての力量を高めることで、自信と誇りをもつようになつて欲しいと思います。我々園長も、そんな保育士の状況の啓発活動や、取り組みやすく内容のある研修制度の確立に努める必要があると思います。

次は組織のあり方です。学校は、校長・教頭・教務(主幹教諭)・学年主任・生徒指導主事・研究主任等と、持ち場や立場が明確で、仕事が分担されています。それと比べると保育園は主任に対する負担が大きく、仕事分担があま

りできていないような気がします。さらに、学校のように数年ごとの人事異動がないため、組織というより、個人の力量に頼るところが大きいのと思います。これはこれで個人に力量があり、園運営が円滑にいったいばいいのですが、長い目でみると、次が育たない、保育内容が活性化しないという面もあるのではないのでしょうか。

最近では、副園長や副主任など設けて、次を育てたり、移行がスムーズに行くようにされてらっしゃる園もあるようです。その部分を私も参考にさせていただきます。

副園長・副主任に加えて、研修主任を設けました。始めたばかりでまだまだうまくいきませんが、研修に関しては、すべて研修主任に任せて、日常の研修や研究保育など、手探りしながら実施しています。内容はまだまだ不十分でも、一人一人の研修に対する意識や姿勢が変わってくればと願っています。

このような中、本年度、処遇改善Ⅱが示されました。園の組織の活性化としては、大変良い制度だと思っ

ています。(配分方法に関しては大反対ですが...) 三番目は朝の挨拶です。学校時代は、朝、正門で挨拶運動をしていて

も、挨拶の対象は子どもでしたが、保育園は、保護者と子どもが一緒に登園です。家庭の様子がよく分

かります。母親が多いですが、父親も思ったよりたくさん送り迎えをしています。祖父も来ます。挨拶が丁寧

で、礼儀正しい方が多いです。ほつとします。福岡市立のすべての小中学校では「挨拶・掃除・自学立志」をキャッチフレーズに、挨拶に力を入れています。福岡市立幼稚園も同じです。保育園でも、挨拶はしっかりとできるようにしていきたいと思っ

「おはようございます」と子どもと保護者に挨拶を交わして、保護者が子どもを預けたあと、門から出て行くとき「いってらっしゃい」と声をかける。もちろん、今からお仕事ですなという気持ちを込めてです。すると「行ってきます」と声が返ってきます。こんな時、ああ保育園だなあと感じています。このようなことを思いつつ、試行錯誤しながら毎日を過ごしています。が、公立と違うので、経営も考えていかなければなりません。この部分は、公立学校と比較しようがありません。全く未知の部分です。正直言つて、よく分かりませんが、とにかく経営難だけにはならないようにしながら、職員の向上意識が高く、「元気なあいさつ、きれいな歌声が響き笑顔あふれる楽しい保育園」になれるように、今後



ご指導よろしくお願います。

編集後記

先日、玉島川の「鮎まつり」に行ってみました。スイカのようなおいがするヌメヌメした鮎に、竹串を差し込み塩を振って炭火でじりじりと！その日はとても暑く、ビール片手にかぶりつき、美味しかったです。鮎は「清流の女王」とも呼ばれ、河川環境の目安になると聞いたことがあります。

会場は河川敷で川にはたくさん小さな魚が泳ぎ、川底の砂に紛れて手のひらサイズの川ガニ発見！長いことこういう風景見えないなと癒された瞬間、川ガニがスルスルと塩ビパイプの中に隠れてしまいました。こんな所に塩ビパイプ??川底のサラサラした砂の流れをよく見てみると、川底には新しいセメント面がちらほらと・・・対岸を見るときっかり護岸整備されていました。

護岸工事の期間中は、多くの人々や重機が入り込み、とても生息できる環境ではなかったはずですが、今は自然に戻って来ている風景。人間との共存共栄でしょうか？それとも環境に合わせる自然のタフさなのでしょうか？

(高山)



(高山)